詩篇　第83編　1節

「神よ。沈黙を続けないでください。黙っていないでください。神よ。じっとしていないでください。」

　聖書そのものの言葉ではないが、この詩編の表題に、歌。アサフの賛歌とある。歌というには、あまりにも切羽詰まった言葉の連続である。言葉を変え、繰り返し訴えている。よほどの苦境にあるからであろう。叫ばなくてはならないような苦難の只中にある者からの言葉である。とても歌としては聞きがたい言葉が連続している。

　それなのに歌とし、賛歌とする。そこには、人が事柄を決め、苦難の程度を推し量り解決するようなことではないことがわかる。困窮にある者が第一声に呼ぶのは、神よ、である。迫っている苦難がどのようなものであろうとも、叫ぶのは神に向かってである。黙らないでください。何かをしてください、と叫ぶことができる。そこに、叫びを聞いておられる神がいる。

　おられるから、いついかなることにおいても言葉を発することができる。言葉を発する者がそのとき即聞きたい答えがあっても、聞いておられる神のまったく自由で、一方的な答えが与えられる。神のときに与えられる答えがある。それが一番だから、神よ、と歌い、沈黙しないで、じっとしないでと歌う。

2025年7月24日